

実践教育について（基礎～応用までの流れ）

基礎

「臨地実習基礎」（1年）～体験・見学～

- ・ 歯科衛生週間事業への参加（地域歯科保健活動）
- ・ 合同実習（1年：患者役、2年：歯科衛生士役）
- ・ 歯科医院見学実習（歯科衛生士業務の見学）

※詳細は「実践教育の紹介」を参照

実践A：思考過程を実践する力

「歯科衛生過程」（2年）

歯科衛生ケアプロセスの知識、
態度・習慣、技術の習得

「口腔保健管理学実習」（2年）

歯科衛生ケアプロセスの実践（合同実習
（1年：患者役、2年：歯科衛生士役））

※詳細は次ページや「実践教育の紹介」を参照

実践B：地域包括ケアで生きる力

「臨地実習応用」（2年）

- ・ 介護予防推進事業実習
通いの場（公民館等）での実習
（地域在住高齢者）
- ・ 学校歯科保健実習
幼稚園や小学校での歯科保健指導実習

※詳細は「実践教育の紹介」を参照

応用

「臨地実習Ⅰ」・「臨地実習Ⅱ」（3年）

シミュレーション演習
（歯科医院実習①②）

「臨地実習Ⅲ」（3年）

歯科衛生実践実習
（歯科医院実習③）

※詳細は次ページや「実践教育の紹介」を参照

「思考過程を実践する力」の育成について（基礎～実践A～応用）

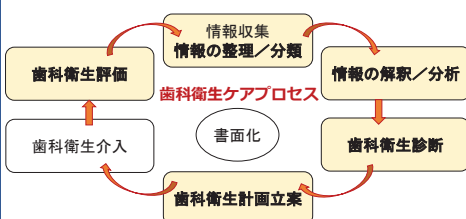
歯科衛生ケアプロセスを論理的思考の基盤とし、科学的根拠に基づいて問題解決する力を講義やシミュレーション演習、実践を通して段階的に身に付けていきます。

< 2年前期～3年後期 >

講義+シミュレーション： 科目名「歯科衛生過程」(前期) & 「口腔保健管理学実習」(後期)

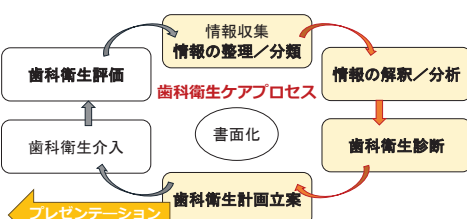
【方法】 歯科衛生ケアプロセスの知識を講義で学んだ後、演習 (Case①：個人単位, Case②：グループ単位) で、その思考過程を模擬的に実施する。情報収集や対人関係構築を目的とした医療コミュニケーション能力を修得するために、模擬患者 (Simulated patients：SP) 参加型学習を行う。後期の実習では、1年生との合同実習として一連のプロセスを実践する。

Case based learning (Case①)



提示された症例情報をもとに、歯科衛生ケアプロセスを個人で思考する。各過程で、担当教員からフィードバックを受け、修正する。

Case based learning (Case②)



提示された症例情報をもとに、歯科衛生ケアプロセスを計画立案までグループで考え、思考過程を論理的にプレゼンする (全体発表)。

SP参加型学習



医療コミュニケーションの基本的な知識と技能の修得患者との良好な関係構築をめざし、かつ、効率的に情報収集する実践力を養うために医療面接法を反復実施。



SPとのロールプレイと振り返りセッション
場面：初診時の医療面接

患者さんの思いを聴ける貴重な機会！

SP参加型学習：ロールプレイ

シミュレーション： 科目名「臨床実習Ⅰ」 & 「臨床実習Ⅱ」(帰校日)

【方法】 歯科医院実習①,②の期間中、与えられた症例課題について歯科衛生ケアプロセスを適用し、アセスメント、歯科衛生診断、計画立案を経験する (2回)。学内の専任教員1名につき3～4名の学生が割り当てられ、少人数ゼミ形式で学習する。

症例課題 → 歯科衛生アセスメント → 歯科衛生診断 → 歯科衛生計画立案 × 2回

歯科医院実習① (Round 1)

目的：実際の症例資料を用いて、アセスメント・歯科衛生診断・計画立案を行う。

省察/繰り返し

実践へ

歯科医院実習② (Round 2)

目的：Round1の学びを省察し、別の症例に対して歯科衛生ケアプロセスを適用し、習熟度の向上をはかる。



専任教員によるゼミ形式

実践： 科目名「臨床実習Ⅲ」(歯科衛生実践実習)

【目的】 臨床の現場で、歯科衛生ケアプロセスに基づく歯科衛生を実践し考察する。省察的実践家になるための基礎を醸成する。歯科医療チームの中で歯科衛生士としての役割と責任を自覚する。(歯科医院実習③)

【方法】 実習施設 (歯科医院) と患者の理解・協力・承諾を得て、学生は患者1名以上を担当し、歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画、歯科衛生介入、評価まで歯科衛生ケアプロセス一連の流れを実践する。

実習施設教員(Dr/DH)による現場指導 (週4日)



学内専任教員(Dr/DH)による指導 (週1日：ゼミ形式)

配当患者 → 歯科衛生アセスメント → 歯科衛生診断 → 歯科衛生計画立案 → 介入(実施) → 評価



歯科衛生実践実習報告会抄録集



学生によるプレゼンテーション

実習期間終了後

集大成として
歯科衛生実践実習報告会

学内教員による指導 (事前抄録・プレゼン用スライドの作成) を経て

歯科衛生実践実習で経験した症例について口頭発表、質疑応答・意見交換による新たな気づきを得る機会。(参加者：歯科衛生学科1～3年生、学内教職員)

12月開催